

## 序 言

日本鳥学会会長 樋口 広芳

この冬、鳥インフルエンザ問題で日本中が大騒ぎになった。2月から3月にかけては、連日のように関連ニュースが新聞やテレビなどで報道され、ウイルスの運び手として渡り鳥が問題にされた。また、3月に入ると、養鶏場で二次感染したと思われるカラスが次々に死亡し、野生の鳥への関心がさらに高まった。

そうした中で、鳥の関係者はいくつかの場面で意見を求められることになった。求められた意見は、鳥フルウイルスの運搬者として野生の鳥はどのようにかかわっているのか、あるいは、カラスへの感染がどのように行なわれ、また今後どのように広がっていくのか、などについてであった。

しかし、鳥学会に属している多くの会員にとって、鳥インフルエンザをはじめとした感染症にかかわる問題は専門外である。しかも、行政やマスコミなどから公表される情報も、どこまで信用してよいものかわからない。感染症関係の専門家から出される意見の中にも、野生の鳥の生態を理解していないと考えられるものが散見された。

さらに、鳥の標識研究者や感染地域の近隣にすむ鳥の研究者は、行政などからの要請に応じて、感染地域やその周辺で鳥の生息実態調査や、ウイルス検査のための血液採取調査などに参加することになった。感染地域での調査に危険はないのか、鳥の羽毛や血液に直接手を触れて感染することはないのか。あるいは調査に入ることで感染を拡げてしまうことになりはしないか。これらの重大な疑問や心配があるにもかかわらず、それらにきちんと対応することもないままに調査が進行してきたように見える。

こうした背景を受けて、日本鳥学会では3月16日に、会長の諮問委員会として鳥インフルエンザ問題検討委員会を立ち上げた。目的は、鳥インフルエンザ問題の正しい理解と適切な対処法について、きちんとした情報を発信することである。そのため委員には、学会員だけでなく、感染症の専門家の方にも加わっていただき、野生の鳥を扱う学会員とともに活発な意見や情報の交換をしていただいた。

本委員会でご検討いただいた主な項目は、以下のとおりである。

- 渡り鳥と鳥インフルエンザの関連
- 日本での発生状況とカラスへの二次汚染
- 海外での発生実態
- 調査，研究上，注意すべきことがら
- 一般の人への注意事項
- 法制度と問題点

## ● 今後の研究の必要性

この学会ホームページで紹介する報告文は、委員会で検討した結果のすべてではない。文字制限などがあって縮小、削除した項目などもある。よりくわしい報告は、学会事務局に印刷物として保管されている。印刷されている報告書の中には、海外の重要文献やホームページの関連記事の翻訳もふくまれている。参照をご希望の方は、お申し出いただきたい。また後日、報告書の内容と同様のものが日本鳥学会誌に掲載される予定である。

4月のなかばが過ぎ、各地で鳥インフルエンザの終了宣言が出され、鳥インフルエンザ問題はおさまったかのように見える。しかし、仮に今回の問題がとりあえずおさまったのだとしても、鳥インフルエンザ問題は今後も私たちの身に降りかかってくることは間違いない。また、今回の問題にしても、まだ不明な点は数多い。本格的な調査や今後の対策はまさにこれからが本番である。さらにいえば、西ナイル熱などをめぐる類似の問題もある。今回の鳥インフルエンザ問題を契機にして、今後、関連の問題への対応がきちんとなされることを強く願いたい。そのための参考資料として、本報告が参考になれば幸いである。

委員にご就任いただいた方々には、年度末、年度初めのお忙しい中、たいへんご苦勞をいただいた。厚くお礼申し上げたい。

平成 16 年 5 月 5 日

## 鳥インフルエンザ問題検討委員会委員一覧（五十音順）

大迫義人（日本鳥学会会員，兵庫県立大学 自然・環境科学研究所・助教授/兵庫県立コウノトリの郷公園・主任研究員）

金井 裕（日本鳥学会会員，日本野鳥の会自然保護室・主任研究員）

唐沢孝一（日本鳥学会会員，都市鳥研究会・代表）

河岡義裕（日本ウイルス学会，東京大学医科学研究所感染・免疫部門ウイルス感染分野・教授）

黒沢令子（日本鳥学会会員，北海道大学地球環境科学研究科博士課程）

須川 恒（日本鳥学会会員）

中村純夫（日本鳥学会会員）

中村浩志（日本鳥学会副会長，信州大学教育学部生態学研究室・教授，本委員会委員長）

濱尾章二（日本鳥学会会員，国立科学博物館附属自然教育園・研究官）

羽山伸一（日本野生動物医学会会員，日本獣医畜産大学獣医学部野生動物学教室・助教授）

福士秀人（日本野生動物医学会会員，岐阜大学農学部獣医学科獣医微生物学講座・教授）

村田浩一（日本野生動物医学会会員，日本大学生物資源科学部野生動物学研究室・教授）

森下英美子（日本鳥学会会員，エコ・プロデュース）

山崎 亨（日本鳥学会会員，アジア猛禽類ネットワーク・会長）

渡辺ユキ（日本野生動物医学会会員・阿寒国際ツルセンター・非常勤研究員・獣医師）

以上15名